



# ニュース

# しぐなるあいず

## コミュニティフレンドとなって思うこと

池上 直樹

40歳代の会社員です。数年前からボランティアを始めて、現在も月に2日くらい活動しています。コミュニティフレンドには、「障害のある人を地域の人も含んだチームで支援する」という考え方に共感して参加しました。

Nさんとは月1回お会いして、グループホームや実家で雑談をしたり、街やイベントに出掛けたりしています。先日は私の自宅にも、Nさんをご招待しました。会ってからは、「次どうする?」「え?それはちょっと・・・」「じゃあこうしよう」などと、相談しながら休日を過ごします。つまり、普通の友人と基本的に同じです。Nさんの希望で「ららぼーと」に行ったこともあります。私の好きな千葉ロッテマリーンズのイベントにつきあってもらったこともあります。

ご家族によると、Nさんは私と会うようになってから「少しおしゃべりになった」そうです。私との友人関係が、これまでの生活にはなかった新しい刺激となって、Nさんの世界が広がることを期待すると同時に、Nさんの影響で私の世界も広がったらいいな、と思っています。

私は、施設に通ったり市民グループに参加した時期もありましたが、最近はコミュニティフレンドをはじめ、「地域の友人として一緒に普通の休日を過ごす」のが、私のスタイルになっています。コミュニティフレンドの活動が広がって、私のようなごく一般の地域のひとが、障害のあるひとともっと自然におつきあいできるようになってほしい、と願っています。

私のブログ「ボランティア雑記帳」にも、コミュニティフレンドのことを紹介しています。よろしかったら、あわせてご参照ください。<http://gami.at.webry.info/>

NPO 法人成年後見センター

しぐなるあいず

代表 早木紀基

連絡先 090-9347-8346

第8号 平成19年5月22日

## 愛知県知多半島、「ふわり」の実践を聞いて

は〜いビスカス代表 千田優子

もう、10年近く前のことであるが、“生活ホーム”をやっていた頃、知多地域のグループホームを見学させて頂く機会があった。

一人暮らしの高齢者の自宅を次々にGホームへと借りていき、そこここにGホームがある。地域の理髪店や八百屋さんの個人商店は、安定的顧客を抱え、仲むつまじく、お互い



が良き理解者として挨拶を交わしていた。みんな、友達ってな具合に！

本人たちのかもし出す「ユックリズム」は、過疎化していく地域に溶け込んで・・・優しく、ほんわかして、本当に心地良かった。そこまでの土壌のある「ふわり」の“今”を戸枝さんは<自立支援法>とのからみで、話してくれた。

ああ、あそこの地域なら・・・こういう発想も可能！と私はうなずけた。

そもそもの“土台”が違うために・・・、きっと話が理解できない方も多かったのではないだろうか？そのくらい、先の先を見越した・・・自助努力の積み重ねの上にたった話であり、そういう社会資源がないのだったら、「創ればいいじゃん」と呼びかけていた。

1億2千万の日本人口のうち、700万人が団塊世代（昭和21～25年生まれ）の日本で、税金で何もかもやれ、という訳にはいかない発想を持たなければならない時代に入ったと思う。

高齢者と障害者は、リズムが良くあうんですよ、と戸枝さんは言っていた。

「住む・働く・社会参加（余暇）」の3点セットが歩ける範囲で作られること。

あの知多地域のような・・・。そこは、やがて障害をもつだろう高齢者を受け入れる土壌ともなる。

バラ色の世界は自分で創れ！そのために<自立支援法>を使え！という叱咤激励と受け止めた。しかし、この地域に限ってみれば・・・これからの課題が沢山。

次は、戸枝氏を口説いて、手のひらに乗せる肝っ玉母さんたちに会いたいものだ。



## 戸枝陽基さんの講演を聞いて

小金わかば苑 松澤ひで子

30代の若さで社会福祉法人むそうの理事長に就かれ、様々な事業を展開されている戸枝さんは、とてもダイナミックな方で、そのお話もとてもエネルギッシュでした。

「必要な時に、必要な人に、必要なサービスを！」という誰もが願っていると思われるサービスが実際に愛知県の半田市で行われていたとは、本当に羨ましい限りです。

以前の支援費制度、今回の自立支援法・・・と国の制度が変わり、混乱している事業者が多いなかでも、今までと変わらずに利用者のためにより良いサービスをしてきたそうです。

「まだ、制度にない必要なサービスを形にしていくことも活動の一つ」

と言い切る戸枝さんらしい行動力だと思いました。

戸枝さんが運営されている「むそう」は、「アートスクウェア」という情報交流の場を拠点にして、「あっと」という生活支援センター、喫茶、鶏舎など五ヶ所の就労の場、2ヶ所のグループホームに分かれ、法人内でスムーズに運営されている様子が伺われました。

このようにサポート体制がしっかりと取られていれば、利用者の皆さん、そしてなによりもご家族の方々は日々安心して生活されているのではないかと思いました。

また、今後の活動の参考に、「むそう」の前身「生活支援サービスふわり」を戸枝さんと共に立ち上げた親御さん方のお話も、聴ける機会があれば、と思った次第です。

最後に、まさに団塊の世代である私たち親と、20代も後半に差し掛かった息子の健康面も含めた漠然とした将来への不安を抱えている今この時に、非常にポジティブな戸枝さんの

講演を聞くことが出来、少なからず勇気をいただきました。